

企画展「やまぐち植物さんぽ【Ⅰ】  
～植物って、すごい、おもしろい、ふしぎ～！」の概要報告

杉 江 喜 寿

Summary report of exhibition“the Botanical stroll in Yamaguchi【1】  
-Plants is amaizing,interesting, mysterious!-”

Yoshihisa SUGIE

山口県立山口博物館研究報告

第51号(2025年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.51(March 2025)

## 企画展「やまぐち植物さんぽ【I】 ～植物って、すごい、おもしろい、ふしぎ～!」の概要報告

杉江 喜寿<sup>1)</sup>

### Summary report of exhibition “the Botanical stroll in Yamaguchi【I】 ～Plants is amazing, interesting, mysterious!～”

Yoshihisa SUGIE

#### 1 はじめに

当館の展示は、規模の大きなものから特別展、企画展（数年前まではテーマ展と呼称）、コーナー展示となっており、特別展は年1回のみ（夏季に）開催する大規模なもので、企画展はそれに次いで規模で各担当が持ち回りで年に数回開催するものである。

今回の企画展は、「植物の世界は奥深く、知れば知るほどすごい、おもしろい、ふしぎな世界が広がっていて、山口県やその周辺にも興味深い植物がたくさんある」ということを知ってもらうための第1歩として企画したものである。

そのために、本展では、山口県内の植物を中心にしつつ、山口県の周辺地域として今回は九州北部の植物、さらに国内の興味深い植物の生育場所の1つとして沖縄県の植物も紹介することにして、そのすごさやおもしろさ、ふしぎさをそれらの植物が生育している地域の美しい景観とともに紹介した。これは単なる植物単体として植物に親しんでもらうのではなく、その地域独特の自然や景観があってこそその植物でもあり、1つの珍しい植物だけに囚われてまさに「木を見て森を見ず」の状態になってしまわなければならないからである。

また、研究報告49号（2022年3月発行）、および同50号（2023年4月発行）でそれぞれ紹介してきたように、当館は1912年に開館した県立としては最も古い歴史をもつ博物館ならではの貴重な標本を多数所蔵しており、今でも未整理の貴重な標本が日々確認されつつある状況であることから、この機会にその一部として日本を代表する植物学者の一人である牧野富太郎や山口県の植物研究の先駆けと言える二階重楼などが作製した標本を含む貴重な収蔵資料を公開することにした。

さらに、子どもたちに直感的に植物のふしぎさやおもしろさなどを感じてもらうために、世界のおもしろい植物の果実や種子を多数展示するだけでなく、実際にふれることができるように、展示会場内でのミニ体験会や展示期間中の教育普及講座なども実施した。

企画展の表題が【I】となっているのは、企画の段階で、とても1回の企画展だけでは、これだけの内容を展示することができないことが明らかだったために、開催段階では次回がいつ

---

1) 山口県立山口博物館（植物）

になるかはわからない状態ではあったが、今回の展示はシリーズの前編（または1回目）という位置付けを明確にしておいて、次回以降への期待ももってもらえるようにした。

## 2 展示時期・場所

- (1) 期間 令和6年（2024年）4月25日(木)～6月16日(日)
- (2) 場所 3階展示室（旧講堂）

## 3 展示構成

### (1) 展示の趣旨（開催のあいさつより）

私たちは植物の存在なしには生きていけません、桜やコスモスなどの季節を代表するような花を見るとき以外の日頃は、植物のことなどあまり気にせずに生活している人も多いと思います。そんな植物の世界ですが、実は奥深く、知れば知るほどふしぎがいっぱいで、すぐくておもしろい世界が広がっていきます。

本展では、山口県内を中心に有名で貴重な植物から、身近でどこにでもある小さな植物まで、そのすごさやおもしろさ、ふしぎさをそれらの植物が生育している地域の美しい景観とともに映像や画像などで紹介します。また、当館のバーチャル収蔵庫でも紹介している、日本の植物研究の黎明期（明治時代）に作製された牧野富太郎博士の標本を含む当館所蔵の貴重な収蔵資料を公開します。

その他にも、植物クイズ、世界のおもしろい植物の果実や種子の展示、子どもたちも楽しめる講座やミニ体験の実施など、子どもたちやあまり植物に興味がない人でも楽しんでいたできるように工夫しています。

今回の展示で、一人でも多くの人が植物の世界により興味をもつとともに、改めて山口県やその周辺地域の自然の豊かさや素晴らしさにふれることで、自然を大切にする心を育ていただけると幸いです。



写真1 会場全景1（入口）



写真2 会場全景2

## (2) 展示内容

### ① 「プロローグ」

- ・山口県の自然や絶景を映像や画像で紹介

展示の導入として、展示室の入口からみて正面に、今回展示する植物とその地域の絶景のうちの一部を、短焦点プロジェクター用いて大画面に投影し、会場内に誘導するようにした。これは展示会場が当館の3階の最も奥にあり、これまでの経験では会場に気づきにくいことと、せっかく入口に来ても入口から会場内に足を踏み入れにくいという状況が予想されるために工夫したものである。

他にも、映像までの道筋に「なっとくんのやまぐち植物カルタ（詳細は後述）」をA3サイズに拡大して展示し、大人から子供まで楽しみながら展示室に入っていくことができるようにした。「なっとくん」は、当館のマスコットキャラクターである。



写真3 プロローグ1 (植物カルタ)



写真4 プロローグ2 (映像の様子)

### ② 「やまぐちの植物さんぽに出かけよう!」

#### ●やまぐちのすごい植物たち

ここでは、山口県のすごい植物ということで、「やまぐちのすごい植物たち【絶滅危惧種編】」では県内植物の貴重な絶滅危惧種のうち24種（画像数72）を、「やまぐちのすごい植物たち【天然記念物編】」では、国指定天然記念物10種（画像数50）、県指定天然記念物25種（画像数125）を展示した。そのうち掲示としては各種2画像ぐらいずつの展示スペースしかとれなかったため、他の画像はスライドショーとして映像化し、モニター大小計3台を使用して展示した。また、これらの情報を補完するものとして、一部の絶滅危惧



写真5 すごい植物1



写真6 すごい植物2

種の画像や県のレッドデータのWEBサイトを来館者が二次元バーコードで検索して、興味をさらに深めることができるようにするとともに、当館WEBサイト上にあり、貴重な絶滅危惧種の標本や明治時代の標本を高画質で見ることができる「バーチャル収蔵庫」についても紹介した。

### ●やまぐちあちこち植物めぐり

今回は、県内の自然豊かな7か所の植物をそれぞれの地域の絶景とともに紹介した。7か所は、①下関市角島（15種）、②下松市笠戸島（6種）・光市虹ヶ浜（5種）・光市室積（4種）、③山陽小野田市津布田（8種）、④山口市秋穂（8種）、⑤美祢市秋吉台（18種）、⑥山口市十種ヶ峰（15種）、⑦周南市長野山（18種）であり、延べ植物種計98種を



写真7 あちこち植物めぐり1



写真8 あちこち植物めぐり2



写真9 あちこち植物めぐり3

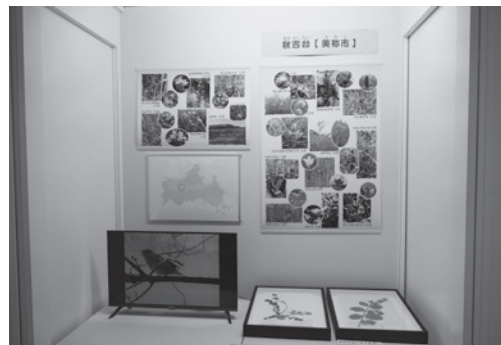


写真10 あちこち植物めぐり4



写真11 あちこち植物めぐり5



写真12 あちこち植物めぐり6





写真13 あちこち植物めぐり7



写真14 あちこち植物めぐり8

紹介した。海岸から草地、山地と幅広い環境の地域を紹介することで結果的に「瀬戸内海国立公園」「北長門海岸国定公園」「秋吉台国定公園」の植物をそれぞれの絶景とともに紹介することができた。98種のうち、16種については、収蔵している標本や新たに作製したドライフラワーを展示した。

### ③ 「やまぐちの、日本の植物研究はここから始まった!？」

もともと地味になりがちな植物展示で、県内植物の紹介だけでは展示が物足りないことが予想できた。そこで、牧野富太郎をモデルにしたドラマ放送の効果で、ここ数年の明治時代頃の植物学者や植物標本への関心が高まっているこの時期を逃さず、当館が所蔵する明治時代などの貴重な植物標本を植物研究の歴史とともに展示することにした。この機会に調べてみたところ、当館には牧野富太郎の標本が1300以上あることが確認できている。特に「ニジガハマギク」の標本は、牧野富太郎が山口県に来県したときに作製したもので、当館の収蔵品として現在確認できている来県時のものとしては唯一のものである。また、山口県の牧野富太郎とも言える存在である二階重楼についても紹介し、標本を展示した。牧野富太郎の標本は、別のコーナーのものも含めると計6点、二階重楼の標本は計2点展示した。ちなみに、今回展示した牧野富太郎の「ツルホラゴケ 明治19年(1896年)」の標本が、現時点では当館の収蔵資料の中では最古の植物標本である。

また、明治以前の植物研究の歴史の一部として、シーボルト(Ph.F.v.Siebold:ドイツ.1796～1866)が江戸時代に山口県に2回上陸して調査していたことも紹介した。



写真15 植物研究1

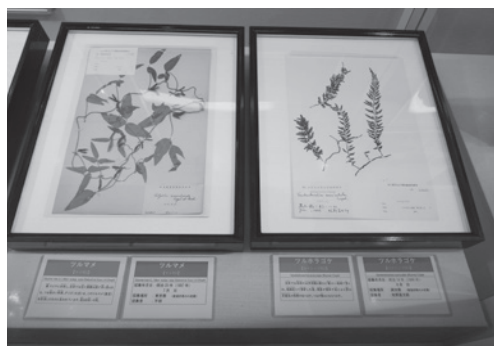


写真16 植物研究2



写真17 植物研究3



写真18 植物研究4

#### ④ やまぐち周辺の植物さんぽ（九州北部編）

来館者の視野を広げ、より植物への関心を高めるために、山口県から気軽に行くことができる地域として、山口県近県の植物も紹介することとし、今回は大分県のタデ原湿原、熊本県のヒゴタイ公園、福岡県の平尾台の植物（計36種）と絶景を紹介した。



写真19 やまぐち周辺1



写真20 やまぐち周辺2

#### ⑤ 植物っておもしろいね、ふしぎだね！

##### ●沖縄の植物

この展示の直前の1月末に沖縄に行く所用があり、限られた場所と時間ではあるが沖縄の植物を撮影する機会ができたので、「世界のふしぎな植物」と合わせて沖縄の植物を紹介した（計10種）。沖縄では1月末からカンヒザクラが満開となるため、県の北部を中心に各地で桜祭りが開催されており、桜の名所はどこも花見で大混雑であった。

##### ●沖縄&世界のふしぎな植物たち

植物への興味・関心を高めるものとして、世界のおもしろい、ふしぎな植物の実（タネ）の実物を展示した。これは、一部は当館所蔵のものもあるが、大部分は趣味で集めたもので、講座や出前授業でも活用している私的なコレクションである。計20種を展示したが、そのうち4種は沖縄県でも自生しているものである。



写真21 沖縄の植物1



写真22 沖縄の植物2



写真23 世界の植物1



写真24 世界の植物2

### ● なっとくんの「やまぐち植物カルタ」

今回は、画像や標本といった、植物分野ではオーソドックスな展示物とは別に、特に子どもたちの植物への興味・関心を高めるためいくつかの工夫をしたが、その1つが「植物カルタ」の作製である。このカルタの50音は県内に自生する植物のみでできており（使用した画像は栽培も含む）、「なっとくんのやまぐち植物カルタ」として、入口付近に展示するとともに、この章の机の上で、カルタ体験ができるようにした。カルタの読み札については、植物名を文章の最後に記入することや最初はカタカナにしていた植物名を小学生以下でも体験できるようにひらがなに修正するなどの工夫をした。そのため、社会見学で来館した幼稚園生でも熱心に対戦して取り組んでいた。

このカルタは、当初は主に親子や子どもを対象と考えていたが、実際には大人の体験者も多く、地元の大学生でもかなり熱心に取り組んでいる様子が見られた。

このやまぐち植物カルタについては、販売してほしいとの要望も多かった。今のところ出前授業でのみの利用としており、当館のMT（ミュージアムティチャー）による植物教室や学芸員による地域の植物教室での体験会のときには大変好評であった。今後は貸出教材としても対応できるように、セット数を増やして準備している。

### ● なっとくんからの挑戦状！「クロスワードクイズ」

主に子どもたちへの工夫として、展示の植物名などを利用して、クロスワードクイズを自作した。クロスワードクイズの作製は経験がなく苦労したが、パズルの用紙と鉛筆と記入用のボードを入口に設置し、参加賞として「なっとくんの缶バッジ」を賞品にした効果もあって、期間中に261名の参加があった（参加賞の配布数より）。





写真25 植物カルタ1



写真26 植物カルタ2



写真27 植物カルタ3 (実践例: 幼稚園生)



写真28 植物カルタ4 (実践例: 大学生)

### ●その他の展示（本、標本、掲載コラム）

自作の植物カルタとクロスワードパズルとは別に、手に取って見ることができる標本、ここ数年に地元の新聞やミニコミ誌に掲載した植物のコラム、牧野富太郎関連の本や冊子を展示した。

標本では、日本の植物研究にとっても欠かせない、「ヤマトグサ」などの植物をあえてラミネート加工の標本として展示し、気軽に標本を手にとって目の前でみるようにした。

また、カルタもクロスワードクイズも難しい幼い年齢層のことも考えて、「なっとくんのぬり絵（植物版）」を2種類用意して、持ち帰ることができるようにして配慮した。



写真29 その他の展示1 (関連本など)



写真30 その他の展示2 (ぬり絵)

「なっとくん」からの挑戦状!!

企画展「やまぐち植物さんぽ」クロスワードクイズ

答えの植物名(人物名)は、展示の中にあるよ!

■クロスワード(タテ:ア～オ、ヨコ:1～5)をとりて、①～⑨にあてはまる言葉をならびかえて答えてください。

1	①	ン		ン		A		ル	
							⑤		B
							コ		ン
	2	C		シ			⑥	⑦	⑧
				キ					シ
3		②	③	グ	サ				
				ミ				D	
							④	口	⑨
									ト
5	④	マ				ボ			

なっとくんの缶バッジをプレゼント!(数量限定)

★タテのカギ【ヒント】(A～D)

- ・A:「やまぐちのすごい植物たち」の絶滅危惧Ⅱ類(山口市)の植物【岩の上で白い花が咲くよ(長門峡)】
- ・B:「沖縄&世界のふしぎな植物たち」のオーストラリアの植物【山火事がないとふえないよ】
- ・C:「やまぐちの、日本の植物研究はここから始まった」の日本人の人物の名前【高知県出身でやまぐちにも来たことがあるよ】
- ・D:「やまぐちあちこち植物めぐり」の秋吉台の植物【青紫色の花が秋に咲き、竜(辰)に関係するよ。漢字では竜胆】

★ヨコのカギ【ヒント】(1～5)

- ・1:「やまぐちあちこち植物めぐり」の美祿市秋吉台の植物【ススキから栄養をもらい、形がおもしろいよ】
- ・2:「やまぐちあちこち植物めぐり」の山口市十種ヶ峰の植物【春に白い大きな花が咲くよ】
- ・3:「やまぐちのすごい植物たち」の絶滅危惧Ⅱ類(周南市)の植物【まさに「日本」の植物だよ】
- ・4:「やまぐちのすごい植物たち」の絶滅危惧ⅠB類(周南市)の植物【細長く白っぽいランのなかまだよ】
- ・5:「やまぐちあちこち植物めぐり」の角島(下関市)の植物【カワラヨモギから栄養をもらおうよ(寄生)】

＜①～⑨の文字のメモの場所＞

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
---	---	---	---	---	---	---	---	---

★正解はここに記入しよう★①～⑨の言葉を並びかえてね!

⑦	②	④	⑧	①	⑤	③	⑥	⑨
---	---	---	---	---	---	---	---	---

答えがでたら、帰りに2階の受付に提出してください。正解なら、ぼく【なっとくん】に関係する、ちょっとしたプレゼントがもらえるよ!(数に限りがあります)

ぼくの名まえをおぼえてね

図1 クロスワードクイズ(なっとくんからの挑戦状)

## 4 関連イベント

### (1) 植物に関するミニ体験

今回は、ミニ体験として「世界のふしぎな実やタネにふれよう！」と「植物のしおりをつくろう！」を期間中に展示会場で不定期に開催した。不定期にしたのは、狭い会場で多人数に対応できないことと、予約制にした場合の職員の負担軽減を図るためである。結果的には、こちらの都合で土日の当番出勤日などに実施直前に開催日時を決めることができ、来館者の多い時間帯などの様子を見て対応することもできたので、担当としても負担感が少なく、来館者からもサプライズ的なイベント体験として大変好評であった。

「世界のふしぎな実やタネにふれよう！」は、延べ14回開催して計228人、そのうち1回は、幼稚園の社会見学の25名参加であった。「植物のしおりをつくろう！」は、1回のみ開催して41名の参加で、ミニ体験全体では269名の参加であった。



写真31 ミニ体験1



写真32 ミニ体験2

### (2) 教育普及講座

期間中の5月25日(土)に「葉脈標本のしおりやミニ図鑑をつくろう！」(参加者15名)、6月8日(土)に「植物標本をつくって調べよう！入門編」(参加者18名)の2回、教育普及講座を開催した。どちらの講座も、終了後に企画展見学とミニ体験を開催した。

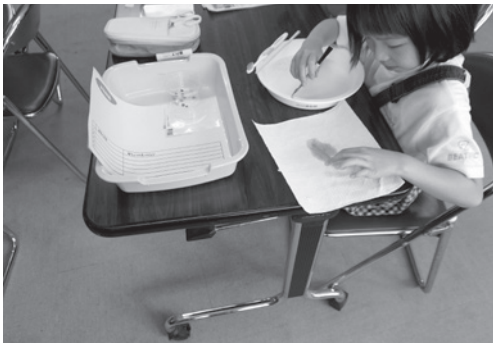


写真33 教育普及講座1



写真34 教育普及講座2



## 5 おわりに

どこの博物館でも、地味な植物分野での展示には苦勞していると聞くことが多い。植物園のような鮮やかな花に彩られることもなく、動物園のような動きや音（鳴き声）などもなく、博物館の植物展示と言え、どうしても茶色がかったものが多い標本展示になりがちで、展示で五感に訴え、感覚的に学ぶことができる選択肢が少ないからであろう。

しかしながら、植物研究の一端に携わるものとしては、植物にまず興味をもってもらわないことには、いくら研究や調査の結果をあれこれ言っても始まらないという危機感は常に持っていて、特に次代を担う子どもたちにこそ植物を始めとする自然に親しんで、自然の大切さに気づくとともに、自然への畏怖や畏敬の念をもってほしいと願っている。

本展は、その取り掛かりとして、まずは植物のすごさ、おもしろさ、ふしぎさに気づいてもらうことから始めよう、というコンセプトで計画したものである。

そのため、いかにしてこの展示室に足を運んでもらうか、足を踏み入れてもらうか、ということに始まり、せっかく展示室に足を踏み入れてもらえたら、今度は少しでも長く滞在して、いつのまにか植物に興味をもっていた、という人が一人でも増えることを常に心がけて企画を進めてきた。

そもそも、会場である3階の展示室は、2階から入る当館の展示室の一番奥にあり、その前には楽しい理工の体験コーナーがあるため、企画展の会場に気づかなかったり、楽しい体験コーナーで満足して帰ってしまったたりすることが多い。そのため、展示室入口の外側から動画による展示を始めて、親しみやすい50音カルタの展示から正面に大画面で山口県の絶景をちりばめた動画の展示を続けて、来館者を誘導するようにした。また、それぞれのコーナーでは最大限モニターを活用した視覚に訴える展示を工夫した。このように全体でわずかに約143㎡しかない本展の展示室で用いたプロジェクターは2台、モニターは大型のもの（サイネージ）が3台、小型のものが8台となり、当館で展示に使えるモニター類をフルに活用した。このような映像の多い展示は、植物の展示ではあまり例がないと思われる。

こうすることで、単なる植物の展示というだけでなく大きく視野を広げ、同時にそれぞれの植物の生育する地域の素晴らしさにふれることができ、ふるさと「やまぐち」を改めて見直す機会にもなったと考えている。

また、明治時代の偉大な植物研究者たちの標本に触れることによって、100年以上も前からこうした地道な努力が続けられ、おかげで100年以上も前の日本の植物の様子が手に取るようにわかるので、植物標本は単なる植物体ではなく過去から現在をつなぐ貴重な財産となっていることも知ってもらうことができたと感じている。

本展の開催中には、本展の続編の企画展の開催は未定であったが、その後当館の諸事情により、急遽令和7年（2025年）の春に「やまぐち植物さんぽ【その2】」（その1は【Ⅰ】と表記したが、ⅡはⅠと混同しやすいので、そのⅡではなく「その2」と表記）の開催が決定した。同じ分野の企画展をしかも続き物として開催することは異例であり、季節が限定される期間の撮影や調査が必要な植物分野では、実質半年の準備期間ではかなり厳しいものがあるが、今回の経験と反省を生かし、さらに興味を引く展示にするために準備中である。

偶然ではあるが、【Ⅰ】で展示した牧野富太郎などのすでに所蔵が記録されていた明治時代の貴重な植物標本に続いて、最近の当館の植物サポーターの皆さんの活動の成果として、未



整理だった植物標本の中に、南方熊楠（1867～1941）やフランス人宣教師で植物学者のフォーリー（Urban Jean Farie 1847～1915）などが作製した貴重な植物標本も含まれていたことが明らかになった。また牧野富太郎（1862～1957）の標本も新たに確認できた。その2では、こうして存在が新たに確認できた植物研究史の上でも貴重な資料である収蔵資料も併せて展示できるように準備を進めている。

最後に、本展やそれに関連する調査に協力していただいた当館の植物サポーターの皆さん、画像を提供していただいた徳島県立博物館の小川誠氏、同じく撮影画像の使用を許可いただいた沖縄県や熊本県の各施設の皆さんを始め、関係各位に深く感謝申し上げます。

#### <参考資料>

#### ●当館のバーチャル収蔵庫へのリンク

## バーチャル収蔵庫(しゅうぞうこ)を見(み)てみよう！

植物(しよくぶつ)のページでは、絶滅(ぜつめつ)危惧(きぐ)種(しゅ)や明治(めいじ)時代(じだい)の標本(ひょうほん)を紹介(しょうかい)

バーチャル収蔵庫は、当館のホームページからご覧いただくことができます。パソコンやタブレット・スマートフォンなどから当館のトップページの「バーチャル収蔵庫のバナー」をクリックしてください。



バーチャル収蔵庫の  
トップページへ



バーチャル収蔵庫  
「植物」のページへ



当館ホームページの  
トップページへ

図2 バーチャル収蔵庫

#### ●バーチャル山口博物館「やまぐち植物さんぽ【I】」へのリンク

バーチャル企画展として、当館WEB上で今回の企画展の画像を公開している。



図3 バーチャル山口博物館

<「やまぐち植物さんぽ【I】 展示物一覧>

企画展「やまぐち植物さんぽ【I】」

2①やまぐちのすごい植物たち

★やまぐちの絶滅危惧種

種名	QRコード	カテゴリー	標本
1 アキヨシアザミ		A	
2 エヒメアヤメ		A	
3 オオヤマレンゲ		A	
4 オキナグサ		A	★
5 ヨウライタチバナ		A	
6 ショウキラン		A	
7 セトウチギソウ		A	
8 トゲラン		A	
9 ミツガシラ		A	
10 ミヤマウメドモク		A	
11 ムラサキ		A	
12 ヤマトキソウ		A	
13 キセウタ		B	
14 ゴシユイナゴ		B	
15 サクラバハノキ		B	
16 タシロラン		B	
17 ヒメウギ		B	
18 ヒメノキンチャク		B	
19 アカネスケ		B	
20 カンサイタンポポ		B	
21 セッコク		B	
22 ヒメヒゴタイ		B	
23 ヤマトグサ		B	
24 ユウスケ		B	

「レッドデータ

ブックやまぐち

2019」へ

山口博物館

「バーチャル

収蔵庫」へ

あちこち植

物めぐりの

「秋吉台」

に展示

★やまぐちの国指定天然記念物

種名	場所
1 嵯峨山樹林	光市
2 大木スギ	高松市
3 安下庄のシナナシ	高松市
4 小部のナギ自生地北限地帯	高松市
5 半川の大スギ	高松市
6 法泉寺のシナナシ	高松市
7 山崎神社ツルマンリョウ自生地	高松市
8 龍蔵寺のイチヨウ	高松市
9 赤田島樹林	高松市
10 エヒメアヤメ自生地南限地帯	高松市

★県指定天然記念物

種名	場所
1 赤井島のヒセンマユミ群落	下関市 (別画像)
2 法林寺のソテツ	下関市
3 長門一の宮佳吉神社社叢	下関市
4 長門正門寺の大イチョウ	下関市
5 川崎三郎のモッコク	下関市
6 高部のシタレザクラ	下関市
7 高部八幡宮のイチイガシ	下関市
8 岡川八幡宮のイヌマキ巨樹群	下関市
9 教養寺のサザンカ	宇部市
10 熊野神社のツルマンリョウ自生地	宇部市
11 竜王山のハマゼンダン	山陽小野田市
12 神功皇后神社のイチイガシ	美祿市
13 三尊宮のバクナノキ	萩市
14 志保岐山神社のミドリヨシノ	萩市
15 辻山のシタレザクラ	萩市
16 河内の大ムク	萩市
17 吉部八幡宮のスギ	萩市
18 西門寺の青蓮(ショウレン、アオバス)	萩市
19 日吉神社のオカタマノキ巨樹群	萩市
20 一位の浜ハマオモト群落	萩市
21 青海島八王子山タチバナ自生北限地	萩市
22 八幡入丸神社御所のヒノキ巨樹	萩市
23 長門市一位方谷のベニドウダン自生地	萩市 (別画像)
24 姫島樹林	阿武町
25 大蔵寺のバクシン巨樹	阿武町
26 鶴ヶ嶺八幡宮のクスノキ	阿武町

※採集者の岡は岡国夫、小田は小田常太郎、二階は二階重徳

展示画像・展示物一覧

(一部変更の場合があります)



2 ②やまぐちあちこち植物めぐり

種名	撮影月	撮影場所	標本	採集者
1 イワタイゲキ	4	角島		
2 キカラスウリ	8	角島		
3 クルマバアカネ	9	角島		
4 コウボウムギ	6	角島		
5 ソナレムグラ	8	角島		
6 ダルマギク	11	角島	●	二階
7 トベラ	1	角島		
8 ネコノシタ	9	角島		
9 ハマウツボ	5	角島		
10 ハマオモト	7	角島		
11 ハマゼリ	6	角島		
12 ハマニカナ	9	角島		
13 フデリンドウ	4	角島		
14 ホソバワダン	11	角島	●	小田
15 ラセイタンソウ	9	角島		
16 ザイフリボク	3	角島		
17 タイミンタチバナ	3	角島		
18 ハスノハカズラ	9	角島		
19 ハマナタマメ	9	角島	●	二階
20 ヒメヤシャブシ	3	角島		
21 ホトタンボウフウ	6	角島		
22 オカヒシキ	10	角島		
23 クロマツ	11	角島		
24 コウボウムギ	4	角島		
25 ニシガハマギク	11	角島		
26 ハマゴウ	10	角島		
27 ハマボウフウ	5	角島	●	小田
28 クロカネモチ	1	角島		
29 スダシイ	1	角島		
30 ムユミ	1	角島		
31 ミミズバイ	1	角島		
32 アキノミチヤナギ	10	山陽小野田	■	
33 コマツヨイクサ	1	山陽小野田		
34 ハマサシ 6月	6	山陽小野田		
35 ハマサシ 11月	11	山陽小野田	■	
36 ハマゼリ	11	山陽小野田		
37 ハマナツナ	10	山陽小野田		
38 フクト	12	山陽小野田		
39 ホソバハマアカザ	10	山陽小野田		
40 エノキダサ	10	萩	■	
41 クロ	10	萩		
42 ハマナデシコ	7	萩	■	
43 ハマナデセンブリ	7	萩		
44 ヒメカマ	7	萩		
45 マサキ	12	萩		
46 マンテマ	5	萩		
47 ヨシ	5	萩		
48 ウツボグサ	5	萩		
49 ウメバチソウ	11	萩		
50 オケラ	10	萩		
51 オミナエシ	9	萩		
52 カキラン	6	萩		
53 キキョウ	8	萩		
54 ササバラシ	7	萩		
55 ススキ	12	萩		
56 センボンヤリ 4月	4	萩		
57 センボンヤリ 12月	12	萩		
58 ナンバンギセル	10	萩		
59 ハシナカマザキソウ	5	萩		
60 ヒナノキンチャク	18	萩		
61 フナバラソウ	6	萩	●	小田
62 ホタルカズラ	4	萩		
63 ミシマサイコ	10	萩		
64 ムラサキセンブリ	10	萩		
65 リンドウ	10	萩		

図4 展示物一覧1

植物 示数【延べ数：画像約250種・800点以上（担当撮影分）、標本47点、  
その他15点、映像12点】 ★は「牧野富太郎」の標本（6点）

山口県立山口博物館

20240423

## ②やまぐちあちこち植物めぐり

撮影月	撮影場所	標本	映像
1	シ	10	十種ヶ峰
2	シ	10	十種ヶ峰
3	シ	10	十種ヶ峰
4	シ	5	十種ヶ峰
5	シ	6	十種ヶ峰
6	シ	6	十種ヶ峰
7	シ	6	十種ヶ峰
8	シ	5	十種ヶ峰
9	シ	6	十種ヶ峰
10	シ	5	十種ヶ峰
11	シ	5	十種ヶ峰
12	シ	6	十種ヶ峰
13	シ	5	十種ヶ峰
14	シ	6	十種ヶ峰
15	シ	5	十種ヶ峰
16	シ	5	十種ヶ峰
17	シ	7	十種ヶ峰
18	シ	4	十種ヶ峰
19	シ	4	十種ヶ峰
20	シ	9	十種ヶ峰
21	シ	10	十種ヶ峰
22	シ	6	十種ヶ峰
23	シ	5	十種ヶ峰
24	シ	9	十種ヶ峰
25	シ	6	十種ヶ峰
26	シ	6	十種ヶ峰
27	シ	8	十種ヶ峰
28	シ	7	十種ヶ峰
29	シ	10	十種ヶ峰
30	シ	6	十種ヶ峰
31	シ	9	十種ヶ峰
32	シ	10	十種ヶ峰
33	シ	8	十種ヶ峰
34	シ	7	十種ヶ峰
35	シ	10	十種ヶ峰
36	シ	8	十種ヶ峰
37	シ	7	十種ヶ峰
38	シ	7	十種ヶ峰
39	シ	7	十種ヶ峰
40	シ	7	十種ヶ峰
41	シ	7	十種ヶ峰
42	シ	7	十種ヶ峰
43	シ	7	十種ヶ峰
44	シ	7	十種ヶ峰
45	シ	7	十種ヶ峰
46	シ	7	十種ヶ峰
47	シ	7	十種ヶ峰
48	シ	7	十種ヶ峰
49	シ	7	十種ヶ峰
50	シ	7	十種ヶ峰
51	シ	7	十種ヶ峰
52	シ	7	十種ヶ峰
53	シ	7	十種ヶ峰
54	シ	7	十種ヶ峰
55	シ	7	十種ヶ峰
56	シ	7	十種ヶ峰
57	シ	7	十種ヶ峰
58	シ	7	十種ヶ峰
59	シ	7	十種ヶ峰
60	シ	7	十種ヶ峰
61	シ	7	十種ヶ峰
62	シ	7	十種ヶ峰
63	シ	7	十種ヶ峰
64	シ	7	十種ヶ峰
65	シ	7	十種ヶ峰
66	シ	7	十種ヶ峰
67	シ	7	十種ヶ峰
68	シ	7	十種ヶ峰
69	シ	7	十種ヶ峰
70	シ	7	十種ヶ峰
71	シ	7	十種ヶ峰
72	シ	7	十種ヶ峰
73	シ	7	十種ヶ峰
74	シ	7	十種ヶ峰
75	シ	7	十種ヶ峰
76	シ	7	十種ヶ峰
77	シ	7	十種ヶ峰
78	シ	7	十種ヶ峰
79	シ	7	十種ヶ峰
80	シ	7	十種ヶ峰
81	シ	7	十種ヶ峰
82	シ	7	十種ヶ峰
83	シ	7	十種ヶ峰
84	シ	7	十種ヶ峰
85	シ	7	十種ヶ峰
86	シ	7	十種ヶ峰
87	シ	7	十種ヶ峰
88	シ	7	十種ヶ峰
89	シ	7	十種ヶ峰
90	シ	7	十種ヶ峰
91	シ	7	十種ヶ峰
92	シ	7	十種ヶ峰
93	シ	7	十種ヶ峰
94	シ	7	十種ヶ峰
95	シ	7	十種ヶ峰
96	シ	7	十種ヶ峰
97	シ	7	十種ヶ峰
98	シ	7	十種ヶ峰
99	シ	7	十種ヶ峰
100	シ	7	十種ヶ峰

3 やまぐちの、日本の植物研究はここから始まった？  
明治時代などの資料（標本）

標本	採集者	採集地
1	ツルホラゴケ	明治 牧野富太郎 ★
2	ツルマメ	明治 木明 ●
3	オオイズノフダリ	明治 二階重徳 ●
4	タカネハンショウツル	明治 牧野富太郎 ★
5	カラハナツ	明治 牧野富太郎 ★
6	ムラサキシキブ	明治 牧野富太郎 ★
7	ニシカハマギク	昭和 牧野富太郎 ★

※他に明治の新聞紙4点  
5 植物って、おもしろいね、ふしぎだね！  
沖縄の植物

標本	採集者	採集地
1	アコウ	1 沖縄県
2	カシュマル	1 沖縄県
3	カンヒザクラ	1 沖縄県
4	クワズイモ	1 沖縄県
5	サトウキビ	1 沖縄県
6	ソテツ	1 沖縄県
7	デイゴ	1 沖縄県
8	ヒカケヘヨ	1 沖縄県
9	フタギ	1 沖縄県
10	ホトス	1 沖縄県
11	ホトス	1 沖縄県
12	ホトス	1 沖縄県
13	ホトス	1 沖縄県
14	ホトス	1 沖縄県
15	ホトス	1 沖縄県
16	ホトス	1 沖縄県
17	ホトス	1 沖縄県
18	ホトス	1 沖縄県
19	ホトス	1 沖縄県
20	ホトス	1 沖縄県
21	ホトス	1 沖縄県
22	ホトス	1 沖縄県
23	ホトス	1 沖縄県
24	ホトス	1 沖縄県
25	ホトス	1 沖縄県
26	ホトス	1 沖縄県
27	ホトス	1 沖縄県
28	ホトス	1 沖縄県
29	ホトス	1 沖縄県
30	ホトス	1 沖縄県
31	ホトス	1 沖縄県
32	ホトス	1 沖縄県
33	ホトス	1 沖縄県
34	ホトス	1 沖縄県
35	ホトス	1 沖縄県
36	ホトス	1 沖縄県
37	ホトス	1 沖縄県
38	ホトス	1 沖縄県
39	ホトス	1 沖縄県
40	ホトス	1 沖縄県
41	ホトス	1 沖縄県
42	ホトス	1 沖縄県
43	ホトス	1 沖縄県
44	ホトス	1 沖縄県
45	ホトス	1 沖縄県
46	ホトス	1 沖縄県
47	ホトス	1 沖縄県
48	ホトス	1 沖縄県
49	ホトス	1 沖縄県
50	ホトス	1 沖縄県
51	ホトス	1 沖縄県
52	ホトス	1 沖縄県
53	ホトス	1 沖縄県
54	ホトス	1 沖縄県
55	ホトス	1 沖縄県
56	ホトス	1 沖縄県
57	ホトス	1 沖縄県
58	ホトス	1 沖縄県
59	ホトス	1 沖縄県
60	ホトス	1 沖縄県
61	ホトス	1 沖縄県
62	ホトス	1 沖縄県
63	ホトス	1 沖縄県
64	ホトス	1 沖縄県
65	ホトス	1 沖縄県
66	ホトス	1 沖縄県
67	ホトス	1 沖縄県
68	ホトス	1 沖縄県
69	ホトス	1 沖縄県
70	ホトス	1 沖縄県
71	ホトス	1 沖縄県
72	ホトス	1 沖縄県
73	ホトス	1 沖縄県
74	ホトス	1 沖縄県
75	ホトス	1 沖縄県
76	ホトス	1 沖縄県
77	ホトス	1 沖縄県
78	ホトス	1 沖縄県
79	ホトス	1 沖縄県
80	ホトス	1 沖縄県
81	ホトス	1 沖縄県
82	ホトス	1 沖縄県
83	ホトス	1 沖縄県
84	ホトス	1 沖縄県
85	ホトス	1 沖縄県
86	ホトス	1 沖縄県
87	ホトス	1 沖縄県
88	ホトス	1 沖縄県
89	ホトス	1 沖縄県
90	ホトス	1 沖縄県
91	ホトス	1 沖縄県
92	ホトス	1 沖縄県
93	ホトス	1 沖縄県
94	ホトス	1 沖縄県
95	ホトス	1 沖縄県
96	ホトス	1 沖縄県
97	ホトス	1 沖縄県
98	ホトス	1 沖縄県
99	ホトス	1 沖縄県
100	ホトス	1 沖縄県

※

## 4 やまぐち周辺の植物めぐり

標本	採集者	採集地
1	オオトマエソウ	8 タテ原温泉 大分県
2	カシワ	6 タテ原温泉 大分県
3	クササシ	8 タテ原温泉 大分県
4	サウオケルマ	6 タテ原温泉 大分県
5	サウギキョウ	8 タテ原温泉 大分県
6	シライトソウ	6 タテ原温泉 大分県
7	シラヒゲソウ	8 タテ原温泉 大分県
8	タンナサワフタギ	6 タテ原温泉 大分県
9	ハンカイソウ	8 タテ原温泉 大分県
10	ヒコタイ	8 タテ原温泉 大分県
11	マイツルソウ	6 タテ原温泉 大分県
12	ミヤマキリシマ	6 タテ原温泉 大分県
13	ヤマトラノオ	8 タテ原温泉 大分県
14	ナギナタコウジュ	10 タテ原温泉 大分県
15	ヒコシオン	10 タテ原温泉 大分県
16	フクオウソウ	10 タテ原温泉 大分県
17	マツムシソウ	10 タテ原温泉 大分県
18	ヤナギタデ	10 タテ原温泉 大分県
19	ヤマアザミ	10 タテ原温泉 大分県
20	ヤマラッキョウ	10 タテ原温泉 大分県
21	リンドウ	10 タテ原温泉 大分県
22	アソノコギリソウ	8 ヒコタイ公園 熊本県
23	ギボウシ	8 ヒコタイ公園 熊本県
24	ノブキ	8 ヒコタイ公園 熊本県
25	ヒコタイ	8 ヒコタイ公園 熊本県
26	フシグロセンノウ	8 ヒコタイ公園 熊本県
27	ホンパシユロソウ	8 ヒコタイ公園 熊本県
28	ヤマホトギス	8 ヒコタイ公園 熊本県
29	オオシシウド	8 平塚台 福岡県
30	キセウダ	8 平塚台 福岡県
31	ゴマノハグサ	8 平塚台 福岡県
32	サイキョウシャジン	8 平塚台 福岡県
33	サギソウ	8 平塚台 福岡県
34	ノビメユリ	8 平塚台 福岡県
35	ヒメオトギリ	8 平塚台 福岡県
36	センボンヤリ	3 平塚台 福岡県

## 沖縄と世界の植物の宝(タネ)

標本	採集者	採集地
1	アダン	実 沖縄県
2	ウンカリナ (グランディディエ)	実 沖縄県
3	オキナクワラシロカシ	実 沖縄県
4	カカオ	実 沖縄県
5	ココヤシ	実 沖縄県
6	サチャインチ	実 沖縄県
7	シャイアントセコイア	実 沖縄県
8	タイオウショウ	実、球果 防府市
9	タコノキ	実 沖縄県
10	タビビトノキ	実 沖縄県
11	ツノコマ (キバナツノコマ)	実 周南市
12	デーダマツ	球果 周南市
13	ナカミマツ	球果 周南市
14	バオバブ	実 周南市
15	パンタシア	実 周南市
16	ヒマラヤスギ	球果 周南市
17	フタバカキ	実 周南市
18	メダセコイア	球果 周南市
19	セダマ	実 (主)、種子 周南市
20	ユーカリ	葉、枝付実 周南市

※●はさく葉（押し葉）標本（★は牧野富太郎）■はドライフラワー  
※他に植物カルタ44種

学名は、1米倉清司・梶田忠（2003-）「JSG Plants 和名-学名インデックス」(YList) . <http://ylist.info/> による

図5 展示物一覧2



## 6 参考文献

今回の企画展開催にあたり、以下の文献を参考にした。

- 阿部 正敏（著）. 1988. 葉による野生植物の検索図鑑. 誠文堂新光社. 東京
- 岩瀬 徹、大野啓一（著）. 2004. 写真で見る植物用語. 図書印刷. 東京
- 岩瀬 徹、川名 興、飯島和子、（著）. 2015. 全農教観察と発見シリーズ 深・雑草博士図鑑. 全国農村教育協会. 東京
- 植村 修二、勝山輝男、清水矩宏、本田光雄、森田弘彦、廣田伸七、池原直樹（編・著）.2010. 増補改訂日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. 東京
- 大川智史、林 将之（著）. 2016. ネイチャーガイド琉球の樹木. 文一総合出版. 東京
- 岡 国夫ほか（編）. 1972. 山口県植物誌. 山口県植物誌刊行会. 山口
- 奥田 重俊（編）. 1997. 日本野生植物館 小学館. 東京
- 小幡和男、岩瀬 徹、川名 興、飯島和子、宮本卓也（著）. 2020. 全農教観察と発見シリーズ 樹木博士図鑑. 全国農村教育協会. 東京
- 門田 裕一（監修）. 2013. 野に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社. 東京
- 門田 裕一（監修）. 2013. 山に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社. 東京
- 佐川義輔、大井次三郎、北村四郎、亘理俊次、富成忠夫（編）.1982. 日本野生植物図鑑草本Ⅰ 単子葉類・草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社. 東京
- 佐川義輔、大井次三郎、北村四郎、亘理俊次、富成忠夫（編）. 1981. 日本野生植物図鑑草本Ⅲ 合弁花類. 平凡社. 東京
- 佐川義輔、原 寛、亘理俊次、富成忠夫（編）. 1989. 日本野生植物図鑑 木本Ⅰ・木本Ⅱ. 平凡社. 東京
- 清水健美（編）.2003. 日本の帰化植物. 平凡社. 東京
- 清水矩宏、森田弘彦、廣田伸七（編・著）.2001.日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. 東京
- 高橋 秀男他（監修）. 2001. 樹に咲く花. 山と溪谷社. 東京
- 中沢 妙子（著）. 2014. 秋吉台で出会った花. 秋吉台エコ倶楽部. 山口
- 中西弘樹（著）. 2018. 日本の海岸植物. トンボ出版. 大阪
- 林 将之（解説・写真）. 2014. 樹木の葉. 山と溪谷社. 東京
- 林 将之、名嘉初美（著）. 2022. 沖縄の身近な植物図鑑. ボーダーインク. 沖縄
- 林 弥栄（監修）. 1989. 野に咲く花. 山と溪谷社. 東京
- 林 弥栄（編）.2011. 日本の樹木 合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. 東京
- 山と溪谷社. 東京
- 牧野富太郎（著）. 1984. 学生版原色牧野日本植物図鑑. 北隆館. 東京
- 南 敦（著）. 2014. ふるさとの花. 中村印刷. 山口
- 矢野 興一（著）.2012. 観察する目が変わる植物学入門. ベレ出版. 東京
- 山口県野生生物保全対策検討委員会. 2002. レッドデータブックやまぐち. 山口県環境生活部自然保護課.
- 山口県野生生物保全対策検討委員会. 2019. レッドデータブックやまぐち. 山口県環境生活部自然保護課. 山口（Web）